

一 般 演 題 抄 録

4. Choriocarcinoma に対する PVB 療法と放射線照射の同時併用を行った 1 症例

中西 欣 弥 黒田 良太郎 秋 月 成 二
渡 部 優 赤 井 文 治 植 嶋 利 文
井 奥 匡 彦

近畿大学医学部脳神経外科学教室

目 的

原発性脳腫瘍における germ cell tumor の発生頻度は約 3% であり、その中で choriocarcinoma の発生頻度は約 5% と極めて低い。

今回我々は choriocarcinoma の 1 症例を経験したので若干の文献的考察を加え報告します。

症 例

8 歳男性。平成 4 年 6 月頃より陰茎の肥大、多尿に気づき、8 月頭痛、悪心、嘔吐出現にて当院入院となった。入院時意識：清明、脳神経系：神経学的に異常認めず。外陰部：陰茎 6 cm (肥大)、尿量 3,500 ml/day、血中 HCG 790 mIU/ml、髄液中 HCG 1,300 mIU/ml、髄液中細胞診にて pap II であった。CT 画像にて鞍上部に石灰化、MRI にて鞍上部から第 3 脳室にかけ mass lesion(+), pituitary stalk 圧迫及び optic nerve に接していた。

以上の検査所見より確定診断及び視神経機能温存目的にて開頭腫瘍部分摘出術施行。組織は Cytotrophoblast 様の大型細胞を主体とする腫瘍組織でこの細胞が抗 HCG 抗体による免疫染色にて陽性となった。このため choriocarcinoma と診断した。

術後 Radiation+PVB 療法が施行された。

Radiation は術後 10 日目より、リニアック 50 Gy/25 回/37 日施行。PVB 療法は術後 30 日目よりリシスプラチン 25 ng を第 1, 2, 3, 4, 5 病日、ビンブラスチン 5 mg を第 1, 8 病日、ブレオマイシン 2 mg を第 1, 8, 15 病日に投与。以上 3 週間を 1 クールとして 3 クール施行した。

血中 HCG 濃度は Radiation 開始後早期に著明な低下を認め、また Radiation 終了後正常化。その後上昇みとめず。また MRI においても、Radiation 開始より約 70 日目で腫瘍のサイズは約半減した。

考 察

従来は悪性 germ cell tumor に対して手術+Radiation という局所治療が施行されていた。この療法では AFP, HCG 値の低下や腫瘍縮小がみられるが、ほとんど 1 年以内に再発、あるいは転移、播種を認めたという。しかし PVB 療法では再発がきわめて少なく、2 年生存率 67.7% と Radiation 群の 46.5% よりすぐれているという報告あり、我々も PVB 療法を試みた。

現在この患者は入院中であり、今後腫瘍マーカーである血中 HCG 濃度及び画像診断による follow up をして行く予定である。